

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日. Contains details for Group Home Yui-ai Tenma.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは静かな住宅地(当社の分譲地)の一面に2ユニットで運営しています。近隣は新興住宅地であり新築の住宅も多く比較的若い世代も多いようで、子供の遊ぶすがたも見受けられます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=017380_0525-00&ServiceCd=320

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、日高管内新冠町の市街地に位置し、閑静な住宅地にある平屋建て2ユニットのグループホームである。JR新冠駅から徒歩圏内で、家族や友人・知人も訪問しやすい利便性のいい地区である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Details for Enterprise Group Dynamics Research Institute.

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取組の成果, 項目, 取組の成果. Contains 20 rows of self-evaluation data for various service outcomes.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所としての理念は掲げており、ホーム内や職員の休憩室などに提示しており管理者、職員はカンファレンスやミーティングなどで唱和し実践につなげている。	事業所の理念は、事業所内に掲示し、パンフレットにも掲載し、利用者や家族にも周知するよう努めている。職員は、月1回行っているカンファレンスで、唱和して職員間で共有し実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	毎年恒例になっている夏祭りに近隣住民の参加も頂き、また、自治会役員の方のお手伝いもして頂き町伝統の太鼓などで、交流の場も広がってきています。	事業所主催の夏祭りやクリスマス会等に地域の方の多数参加や協力があり、認知症カフェやレ・コード館のカラオケ大会にも参加するなど地域と日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町のケア会議に参加し当ホームの現状の報告や他事業所の情報交換など連携をとり町発行の広報誌作成に携わりホームの内容を掲載し認知症の人の理解や支援方法などを地域に向けて活かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	年、6回の運営推進会議では毎回ホームの現状の報告をして役所の方や福祉関連、自治会の方々の助言や理解をして頂き、今後の運営に生かし、ご家族にも会議議事録を通して理解を頂いている。	運営推進会議は、役所の担当者や福祉関係者、町内会役員、民生委員などが参加して、定期的に開催し、運営状況の報告や情報交換、意見交換など行いサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、役場の担当者や町内会役員などが参加して定期的に開催しているが、利用者家族の参加が少ない。家族の意見や要望を聞く場でもある為、家族の参加を促す企画検討を期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎年、町主催の福祉関係事業所と副町長、町福祉課課長関係者にて懇談会を開催して各事業所よりの実情や取組を説明し大きな成果に繋がり、今後も定期的に開催していく事も確認してあります。	役場主催の福祉関係者の懇談会が毎年開催され、参加して情報交換しており、今後も連携して協力関係を築くよう取り組んでいる。また、保護課の担当者が年2回訪問があり、情報交換して連携している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待、身体拘束廃止委員会を設置しており、委員会にて話し合い研修計画をたて全職員にアンケートとり意識の向上をはかり内部研修を実施し虐待、身体拘束の具体的な行為について職員の理解に努め身体拘束をしないケアに努めている。	事業所内に虐待・身体拘束廃止委員会を設置して、指針やマニュアルを整備し、3ヶ月に1回委員会を開催し、事例の検討会を行っている。また、身体拘束をしないための研修会を年2回行って、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	管理者、職員は虐待防止法を内部アンケートや研修、虐待についての回覧にて周知事業所内での虐待を見逃ごされることがないよう防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	町主催の研修などに参加し学んだ事をミーティング等で周知している。現在、権利擁護、青年後見制度を活用されている方はいないが必要が生じた場合に備えて活用できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は家族に十分な説明をし、理解を頂き締結をしている。また入居されても疑問や不安がないか来訪時に尋ね、理解や納得して頂けるように努めている。改定時は説明し文書にて同意を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の議事録を送付して、ご家族等の意見や要望など、来訪された時には聞き取りをしてミーティング等で話し合い家族の意見などがあれば運営に反映できるようにしている。	利用者毎の生活状況のコメントを記載した、ホーム便りを毎月発行して、運営状況等を家族に報告している。家族からの意見や要望は、来訪時に殆ど聞き取っており、運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見等はミーティング等で集約をし幹部会議にて話し合い、その意見や提案を次回のミーティングに反映させ提案の困難な状況が生じた場合には当本主に状況を説明して意見を聞きながら対応している。	毎月、ユニットのカンファレンス・ミーティングを行っており、幹部会議も開催して職員の意見や提案を聞いている。個人面談は必要な都度実施しており、職員からの意見等は運営に反映している。	毎月行われるミーティングや必要な都度実施している個人面談だが、人材育成や人心掌握の為、年1回以上の定期的な個人面談を実施することを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の就業環境を向上させる為の整備として資格取得を目指す職員に対して自治体の助成金も活用して研修の費用も負担する支援規程も設けて積極的に資格取得に向けて支援する取組も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護職員の不足が続いている事もあり有資格者職員を確保する事は厳しい状況にあり事業所内で職員の力量を把握し各種の研修会等への参加を促し、その費用と時間を投資しても人材を育てる機会を設けて取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	同業各社の代表者とは不定期に各問題や課題が発生した場合には相互訪問等で意見交換や問題提起を共有して情報交換を通して、サービスの質を向上させていき今後の活動にも努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前、面談調査時に本人の様子や嗜好などを聞き、また本人から聞くことが難しい場合は出来る事、出来ない事を家族の方に聞くなど本人ができるだけ安心できる関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前面談調査時にホームでできる事、できない事を伝えると共に、不安な事や困っている事、要望等にも耳を傾けながら、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族等が必要としている支援を事前に聞き入れ、当ホームで提供が不可能の場合は、他のサービス利用を含め他の事業所へ相談するなどの対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人の出来る事を見極め、一緒にホーム内の家事、食器拭き、食事の盛り付け、洗濯物たたみや自室の床のモップ拭きなどして頂きホーム外では畑の野菜の収穫なども職員と一緒に頑張って頂いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方が来訪時にご本人が好きだった歌や趣味など本人を交えて話を聞くなどしている。家族交流会の行事に参加して頂き良好な関係作りが出来るように支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人が来訪時には会話がしやすいように本人の居室で過ぎて頂いている。又地域の方が集まる茶ロンに月1回参加している。友人、知人の方達との関係が途切れないよう支援している。	地元出身が殆どな為、友人や知人の来訪がある。地域の方が集まる茶ロンに月1回参加して馴染みの人と交流している。行きつけの理容院や美容室へ職員が同行して支援している。また、家族とお墓参りや職員と買い出しに同行するなど関係の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活などで出来る活動の中で食器拭きやテーブル拭きなど利用者同士で声かけ合いながらお互い協力しながら行って頂いてる。難聴や声が発せない方にも会話が取りやすいように職員が仲介しコミュニケーションがしやすいよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス(契約)が終わっても、家族や本人から相談があれば、対応できるよう支援に努めている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中での会話や意向の聞き取りをし職員間でも情報の共有をし、本人との聞き取りが難しい時はカンファレンス、個人記録などで表情や動作など話し合いし、できるだけ本人の希望や思いに添うよう努めている。	利用者の誕生日や外食の時にメニューなどで食べたいものの意向を聞いたりするなど、生活の中で思いや意向を把握するよう努めている。	
----	---	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの聞きとりを行い、日々の生活のなかで暮らし方や環境、これまでのサービス利用の経過などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録に心身状態(言動、行動)などの記録をし職員間で情報の共有をし個々の現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、カンファレンスを実施し4か月毎介護計画の更新を行いモニタリングを作成し次の計画を作成している。見直しの時の話し合いの記録や家族にもモニタリングをして頂き次の計画の説明をし要望や意見も聞きいれ現状に添うように介護計画を作成している。	毎月、利用者毎の職員全員のモニタリングをまとめ、家族の意見や要望を収集して、カンファレンスでまとめて、現状に即した介護計画を作成している。また、見直しは4ヶ月毎に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の中での言動、行動、表情などを個人記録に記入しカンファレンスなどで意見を交換し情報の共有をし実践や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて。入院時遠方の家族であれば相談に応じてホームで入院手続きをするなどその他、受診、買物などもその時々生じた柔軟な支援が出来るように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のレコード館で催事やカラオケ大会がある時は観に行かれたり、町の地域包括支援センター主催の「えましあ茶ロン」にも参加したり多くの方と関わりが持てるように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意見や希望を聞きいれ、医療関係者との連絡、相談をし事業所との良好な関係を築き適切な医療を受けられるように努めている。	協力医療機関は月1回の職員同行の受診で、歯科医は訪問診療である。また、看護師は協力医療機関の看護師に連絡して24時間の対応で適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームに看護師は在中してないがかりつけの病院看護師に利用者の状況や異変があった時に連絡相談し、適切な受診が受けられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時は情報提供し早期治療や回復に役立てて頂けるよう速やかに行っている。入院時の状況なども聞きとりや情報交換をして病院関係者との良好な関係が築けるよう努めている。又、医療関係や家族と早期退院に向けて話し合いをしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	当ホームにおいて現在、看取りケアは行ってはいないが、重度化や終末期においては家族、医療関係者の説明を交え家族と話し合いを行っている。必要に応じ地域の関連機関との相談も行っている。	重度化した場合や終末期の対応については、現在は、看取りをしないことの説明と同意を得ているが、協力医療機関との連携など、家族と都度打ち合わせして対応に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを作成している。2年に一回程度全職員が救急救命講習を受講している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の昼間、夜間と火災を想定した避難訓練と、消火活動の訓練を自治会の方にも参加して頂き実施している。また、年1回の町の防災避難訓練で地震と津波を想定した避難訓練に参加している。その際の避難経路の把握と地域の協力体制を築いている。	火災の避難訓練は、消防署の指導の下、年2回地域の方の参加協力で定期的実施しており、町主催の地震と津波の防災訓練にも参加している。また、町内には、職員が複数居住しており、緊急時の支援体制も整えている。備蓄や発電機(貸与)等の備品も整備し、地域との協力体制が出来ている。	

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の人格を尊重しプライバシーの配慮に努め適切な言葉かけをしている。また事業所内の接遇マナーの研修を実施し全職員が参加している。	人格の尊重とプライバシーについては、定期的な接遇研修を行っており、また、各種ファイルには、利用者名が分からないように記載しており、配慮した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活など会話のなかで希望などがあれば自己決定などがしやすいように工夫をしている。外食などはあらかじめ写真のメニューを用意し本人に楽しく選んで頂けるように工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	利用者の心身、身体状況などもあり本人のペースを考慮しその日にあった過ごし方をそのつど把握し対応している。食事などのペースも個々に添うように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一回の理容室に行かれ、本人の希望で髪を切られたり、なじみの理容室に行かれなくなった方には理容室に連絡をしホームに来訪して頂き散髪をして頂くなど身だしなみやおしゃれができるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	事前面談時に好みの食べ物や苦手なものなどを聞き、苦手な物は本人の好みに合わせた物を提供するなどの工夫をしている。職員と一緒に食事の盛り付けや後片付けなどもして頂いている。	食事は、ユニット毎に調理担当があり、利用者毎の希望に対応できる。利用者は、盛り付けやお茶入れ、テーブル拭きなどを手伝っている。行事食は、出張の握り寿司などで、外食は、新冠温泉での食事や定食屋、寿司屋、焼き肉店など楽しみな食事の支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録に食事、水分の摂取量の記入があり不足時は栄養補助のエンシュアやゼリーなどを提供している。また町の栄養士による講習と一週間のメニュー表を提示し栄養の相談をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後の口腔ケアは必ず職員が付き添い個々に行って頂いている。一部インプラントと義歯の使用者の方もおり、自身で磨いて頂き磨き残しは職員で磨いている。歯茎の腫れなどもあり歯科衛生士に定期的に診て頂き磨き方等の指導も受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の習慣や状況を記録にて把握しカンファレンス等で職員間で共有し支援している。また個々の習慣、パターンに合わせてトイレに声かけしている。現在、全員トイレにて対応しオムツ使用の方はいない。	個人の記録から排泄のパターンを把握して、職員間で共有し、利用者毎の習慣やパターンに合わせて、声掛け誘導してトイレでの自立した排泄に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無や習慣を記録しており、下痢や便秘などは下剤の調節をしている。受診時主治医に状況報告をし相談している。食べ物や飲み物なども個々に合わせた工夫をし支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	個々の体調(バイタルチェック)、気分、その時の希望なども考慮した声かけをしている。入浴日は決まっているが本人の希望があればいつでも入浴が可能な状態にしている。同性介助も行き、個々に添った支援をしている。	浴室はユニット型で、暖かい。入浴は、週3回程度で、本人の希望があれば何時でも入浴が可能であり、利用者個々に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣(昼夜)の把握は毎日申し送りにて職員間で周知し、夜間あまり休まれていない場合は日中居室で休んで頂くなど声かけし現在、午前、午後と2回ラジオ体操を実施したり夕食前に軽いレクリエーションなどをし、夜間気持ち良く休んで頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は職員が管理し追加の薬などが処方された時はその都度申し送りで周知しカンファレンスで副作用や用法用量について話し合い服薬の症状の変化などの確認に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活に欠かせない家事、特に掃除に関して職員と一緒にモップで床拭きや手すり拭き洗濯物たたみ、自室のクローゼットにしまっ頂くなど個々に役割を持って頂けるようにしている。また歌の番組を観られる事が好きな方が多く録画等をし、楽しみ事や気分転換等の支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見(桜)や近隣の散歩、理髪店、近くのレコード館に行き催事やカラオケ大会など観に行かれている。家族とお墓参りに行かれたり外食や買い物なども行かれている。地域の方との触れ合いができるよう支援している。	日常的に敷地内や近隣の散歩や外気浴をしている。外出行事は、二十間道路のお花見や温泉、温泉の売店での買い物やカラオケ大会参加、認知症カフェなど月1回外出行事の計画を立て支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、家族よりお小遣いをホームで預かり本人の要望があれば家族に連絡相談いつでも使えるようにしているが、現在、ほとんどの方がお金を使いたいと話される方はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に連絡をしてほしいと要望があれば対応している。また家族や友人からハガキや手紙が来た場合は本人に渡し希望があれば職員が読むなどの支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は個々の生活習慣を考慮した上でリビングの配席、車いすの方が移動しやすい状況を作るなど混乱しないように配慮している。居室、脱衣所、リビングに温度計を設置し寒暖時に調整をしている。飾り付けや置物などで季節を感じて頂くなど意心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用空間は、ユニットにより若干異なるが、玄関から入るとゆったりとしたダイニングとリビングがあり、天窓やウッドデッキもあり、採光や風通しもよく、利用者が寛いで過ごしている。壁には行事の写真や季節の飾り物などが飾られ、季節を感じる。また、各ユニットには非常口があり、緊急時には有効である。さらにそれぞれに和室の談話室もあり、配慮された造りである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間は食事やレクリエーションをするスペースもありテレビが置いている和室に一人用のソファを2個とベランダ側に1~2人の方が茶話や作業したりするコーナーを設けるなどの工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に馴染みの物や使い慣れた物など本人、家族と相談した上で設置し入居後も本人、家族と話し合い、不都合がないか確認し出来るだけ居心地よく過ごして頂けるような工夫をしている。	居室には、収納ロッカーやベット、洗面台が設置している。利用者は、使い慣れた家具や馴染みの物を持参して、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室近くにトイレがあり自立されてる方が直ぐに認識し使用できるようにし居室には個々の残存能力にあわせて必要であれば手すりの設置や車椅子用の洗面所に変えたりなど出来るだけ自立した生活が送れるようにしている。		